



東地申第4号

9月4日 開催

## 2019年秋の運用改訂を求める申し入れ

### 前泊を前提とした行路について

その2

- 組合 ダイヤ改正時での議論にもなったが、前泊せざるを得ない日勤行路が増えている。会社の認識はどうか。  
会社 増えた区所もあれば現行のままの区所もある。行路作成上でまずいことかと言えばそうではない。列車ダイヤに左右される。当社の生業は鉄道輸送であり、ご利用のお客さまに沿った列車ダイヤになっている。それに基づいた行路作成だ。
- 組合 短時間行路の設定により、前泊を前提とした行路が増えた。2泊3日になってしまう。現場の声は聞いているのか。  
会社 運用課も現場に行き、意見交換はしてきた。やみくもに早い日勤を作っているわけではない。朝の出区本数が多いなど列車ダイヤに反映される。
- 組合 基本的に前泊は少ない方がいいと考えているのか。  
会社 あくまでも日勤行路。ただ、時間を見れば早いなあとはあるが、早く乗って早く帰りたいという人もいると思う。
- 組合 解消に向けて検討しないのか。  
会社 検討しないわけではない。変化点があれば変わってくる。現状の列車ダイヤであると本数を確保しなくてはならないことから、現行のような行路になる。
- 組合 列車ダイヤと言うが、平成31年のダイヤ改正では大きくダイヤが変わったわけではない。乗務員勤務制度の見直しで、拘束時間を延ばして詰め込んできたのが課題だ。全体的なバランスを見て解消していく考えはないのか。  
会社 ないわけではないが、朝と夕方本数が違う。バランスが取れないことが行路作成の奥深いところだ。
- 組合 前泊を前提とした行路は減らせると考えている。  
会社 皆さんからすれば、1・2分かもしれないが、今までも出勤時間を落とせるものは落としてきた。全てを8時台に合わせるとかは難しいが、今後も行路の作り方については、前泊行路を無くせないものについては、検討していく考えはある。世間的に働き方が変わるなど、世の中の変化もあるが、現状の中で私たちの出来る工夫はしていきたい。
- 組合 ダイヤ改正で大きく列車ダイヤが変わればまだ理解するが、ダイヤが変わらないのに短時間行路の設定などの制度が変わって、出勤時間が早まっていると乗務員は実感している。短時間行路を含めて現場とのコミュニケーションが必要だ。  
会社 色々なところから制度は成り立っている。その制度の中でいかに社員の意見を反映できるものやっつけていくかと思っている。社員の声を聞くと分かることもある。真摯に受け止めたい。支社で解決出来ないものは、本社にも伝えていく。関係支社と調整するべきことはしていく。
- 組合 改めて、自宅から通勤できることが望ましいと主張する。

### ダイヤ改正検証アンケートについて

- 組合 申し入れの頭書きにもあるが、「ダイヤ改正検証アンケート」を取り組んできた。その中で、ダイヤ改正後の「疲労度」について98%の組合員が「増加」したと回答している。そのような声は把握しているのか。  
会社 ゼロではない。「行路が長くなった」「明けが遅くなった」などの意見を聞いている。
- 組合 「仕事は長くなっても睡眠時間は以前のままだ」という意見も上がっている。  
会社 改めて行路は見たが、増えているところもあれば、減っているところもある。傾向値で全体論ではないかと思う。
- 組合 ダイヤ改正以降、居眠りの事象が増えている。睡眠の対策としてマットレスなどが変わったが、乗務員からすると睡眠時間を確保してほしいという声が上がっている。  
会社 今改正に限らず、「睡眠を目的とした時間」の意見は聞いている。そこについては意見を踏まえた上で反映できるものは反映していく。申し入れにもある眠気による停止位置誤りの件数は増えてはいない。
- 組合 制度が変わって行路のウェイトが変わってきた。山手線で言えば今までの5周が6周になったが、行路作成上、合間の時間も確保できない。睡眠時間も変わっていない。行路実態に応じていかなければ疲労度は増していく。システムはあるが確認事項は増えた。それも含めて行路作成していくべきだ。乗務率を上げるためだけに見える。  
会社 行路作成においてクリアしなければいけないものはしている。間合いは、広げられるところは広げている。他支社との持ち替えもしている。今後も出来るところはやっつけていこうと考えている。
- 組合 半年運用してきたが、職場内でも「これとこれを差し替えてほしい」という意見がある。区所内で変えられないのか。  
会社 システム上現実的ではない。ダイヤ改正は1年間の労働条件を決められる場でもあるので、そこでまずは検討した上で次期ダイヤ改正までに、もう一度検討してより良いダイヤ改正にしていくのがダイヤ改正だ。
- 組合 申4号の根本的なところだ。秋に運用改訂を求めているのは課題を解決するためだ。総じて運用改訂を求めている。やみくもに求めているわけではない。アンケート結果にもある通り、このままでは事故が増えるのではないかと危惧している。睡眠の質を上げる努力は分かるが、現場からは睡眠時間の拡大が望まれている。全職場の運用改訂を強く求めている。危険な状態だということを理解するべきだ。  
会社 主張は承った。団体交渉を通じての話も伺ったし、社員の声にも耳を傾けていきたい。そういった中で出来ることはやっつけていきたい。

**疲労の蓄積は集中力の低下を招く安全上の大きな問題だ！**

**ダイヤ改正後の労働実態から見えた課題を解決し安全に働きやすい環境を求めていく**